

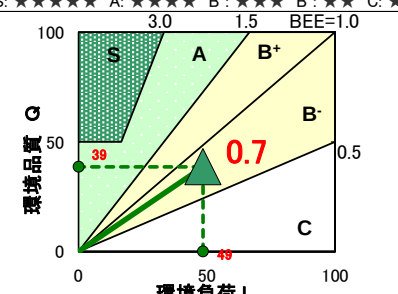
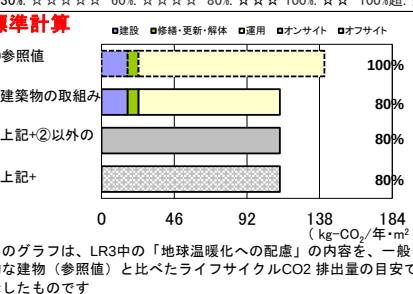
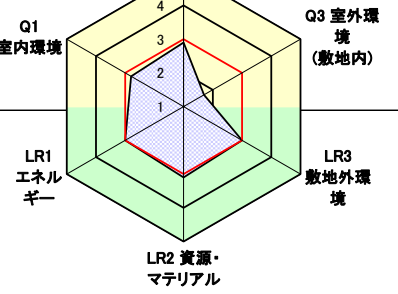
CASBEE®名古屋

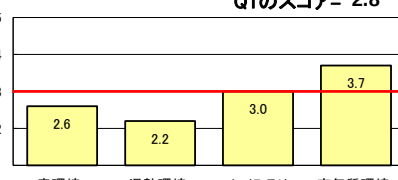
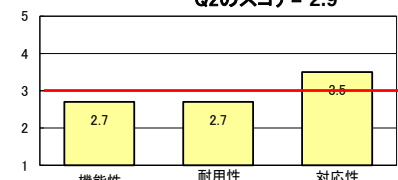
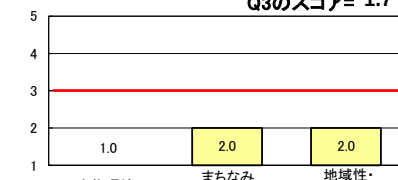
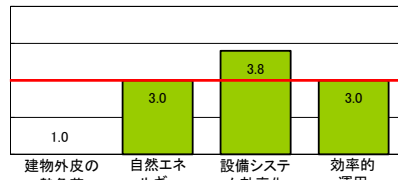
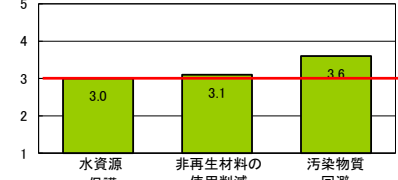
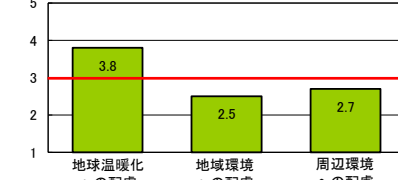
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築物環境性能評価マニュアル(2019年改訂、省エネルギー性能評価項目等改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)ケーズデンキ中村岩塚店 新築工事	階数	地上2F	
建設地	名古屋市市中村区畑江通9丁目1番1 他14筆	構造	S造	
用途地域	商業地域、第一種住居地域 準防火地域	平均居住人員	0 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)	
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2023年6月29日	
敷地面積	4,362 m ²	作成者		
建築面積	3,724 m ²	確認日	2023年6月30日	
延床面積	7,229 m ²	確認者		



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.7 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★ 	標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+ 	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9 	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 1.7 
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0 

3 設計上の配慮事項		
総合		
これはCASBEE名古屋による評価結果です。		
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
適切な室温設定にて室温制御をおこない、内部に使用建材および接着剤についてもF☆☆☆☆のものを採用することで施設内環境の向上に努めている。	外壁: 20年、内装10年、配線・設備等: 10年の耐用年数を目標としている。バリアフリー法の移動円滑化基準を遵守し、天井高さにゆとりをもたせた計画としている。	建築物エネルギー消費性能確保の基準を満たしている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
省エネルギー法の判断基準内で熱負荷を抑制 省エネルギー法の判断基準内で設備システムを効率化。	節水タイプの大便器・洗面器(節水コマ)を使用し、内装についてはシックハウス対策法に基づき、使用材料・接着剤などはF☆☆☆☆のものを使用。	騒音対策については大規模小売店舗立地法に基づいた計画をし、外部照明については建築物の外壁面および広告面を照らすような計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ケースデンキ中村岩塚店 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。